

クローバー通信

女性医師支援センター講演シンポジウムの報告

テーマ：北関東近隣県の連携と協働

『栃木県の地域医療支援の取組』

栃木県保健福祉部保健医療監 山本圭子先生

『群馬県における女性医師支援活動の現状』群馬大学大学院医学系研究科医学教育センターリカレント教育部門長 菊地麻美先生

『医師のキャリア支援 in 筑波大学』筑波大学附属病院総合臨床教育センター副部長、病院教授 瀬尾恵美子先生

『福島県女性医師支援の取組』福島県立医科大学男女共同参画支援室長 小宮ひろみ先生

2015年10月31日、第5回女性医師支援センター講演シンポジウムを開催しました。

平石病院長による開会の挨拶の後、山本圭子先生から、栃木県の地域医療支援の取組について教えていただきました。県・行政による医療者への支援の政策が分かり、行政の取り組みの重要性を感じました。

菊地麻美先生からは 女性医師の出産・育児を理由とした離職を防止するための具体的な支援の紹介がありました。県・県医師会・群馬大学が協力して考案、設立された保育サポーターバンクは、1人の医師に対して2～3名のサポーターがチーム体制で支援するので、プロとしての研鑽を継続できるということでした。

瀬尾恵美子先生の講演は女性医師支援の課題に応える内容でした。今後の専門医制度の改革もふまえ、女性医師支援とキャリア支援の問題は切り離せない問題と痛感しており、勉強になりました。

小宮ひろみ先生は、地域全体の医療環境改善と女性医師支援についての講演でした。震災による医療環境の変化が地域全体での女性医師支援につながったことは大変興味深かったです。

シンポジウムではフロアの先生方も交えて活発な御討議をいただきました。今後も個々人のキャリア形成を含めて皆様と協働し、支援に繋げていきたいと思っております。ご参会いただいた皆様、ありがとうございました。

文責：前澤 玲華

第16回クローバー交流会が行われました。

消化器内科・健康管理科 知花 洋子

研修医、レジデントの若い先生方、現在子育て中の先生方を中心に多くの方にお集まりいただきました。知花と小児科の田中慎一郎先生が今回ロールモデルとして発表しました。私は卒後21年目で4人の子育て中ですが、今回は我が家の子育ての標語「自然の中で体をうごかそう！」を中心にお話をさせていただきました。栃木県は成人も子供も肥満率が高いこと、女性の平均寿命が全国ほぼ最下位など、健康に子育てができる環境とはいえないため、我が家の子供達はできるだけ体を動かす工夫をしている点をお話しました。会の趣旨から外れていた感もありましたが、参加してくださった先生方は熱心に聞いてくださいました。

次に、小児科の田中先生の御発表がありました。田中先生は小児科の臨床の現場を支え、御活躍されているっしやる先生です。田中先生の「患者さま、ご家族に寄り添う姿勢」、「患者さまを助けたい」という情熱あふれるお話を聞いて、初心に返った新鮮な気持ちになりました。今までは他科の先生と交流をもつ機会がありませんでしたので、今回いろいろな先生方とお話する機会がもて、貴重な交流ができました。女性医師支援センターの先生方このたびはありがとうございました。